

## 第5回共生のひろばに寄せて

伊藤真之（神戸大学大学院 教授／ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット）

### はじめに

昨年から、共催という形でこの「共生のひろば」のお手伝いを少しさせていただいている「ひょうごサイエンス・クロスオーバーネット」（略称：クロスネット）と「RCE兵庫-神戸」の伊藤と申します。簡単にご紹介すると、「クロスネット」は、兵庫県において、皆さんに科学に親しんでいただく取組みを進める人々のネットワーク、「RCE兵庫-神戸」は、自然との共生の中で豊かな未来を開いてゆこうという人々のネットワークです。



「共生のひろば」には、確か第2回から、毎年とても楽しく参加させていただいています。今回も、小学生からシニア世代まで、ミジンコから森づくりまで、幅広い取組みについて、熱い発表や、地道に積み重ねられた活動のご報告を大変興味深く聞かせていただきました。

### 身近な自然に目を向ける人がいたら

いろいろなご発表を聞くうちに、ふと自分の「いなか」のことを思い出しました。正確には両親の故郷です。私は東京の都心、日本橋というところで生まれ育ちましたが、両親は千葉県の出身で、子どもの頃はよく休みを利用して遊びに行きました。海と山が程近くにあり、田んぼに囲まれた自然豊かな場所でした。私はカエルやカメなどが大好きで、とても楽しい時を過ごしました。ところが、ある時期から海岸が埋め立てられ、大きな工場ができました。埋め立ての土を採ったのでしょうか、山の一部は削られ、それほど高くない山の上は切り開かれて団地ができました。いつの間にか田んぼもなくなって、とても寂しい思いをしました。

今日、この「共生のひろば」でいろいろな発表を聞くうちに、ふとそのことを思い出しました。発表の中に、例えば、長い年月、ホテルの様子を丁寧に観察・記録された報告があったと思います。ふと思ったというのは、もしその「いなか」の町に、今日ここにおられる皆さんのように、身近な自然に暖かい目を向け、その姿を丁寧に見守る人たちがいたなら、またそうした人たちの手を取りその豊かさに気づかせてくれる人が近くにいたなら、その町の姿は今とは随分違ったものになっていたかもしれないと。

### 宇宙科学でいま

私の専門は宇宙科学とか天文学の分野です。私自身がそれを研究しているわけではありませんが、宇宙科学で今最も注目を集め、急速に進展している分野の一つに、「太陽系外惑星探査」があります。目指しているのは、地球と同じように、生命を宿しているような惑星を探そうということです。

ご存じのように私たちの住む地球は、太陽という星（恒星）の周りをまわっている惑星の一つです。太陽のような恒星は中心で核融合反応というのが起きていて、自分自身で大きなエネルギーを出すので、明るく輝いています。「太陽系外惑星探査」というのは、太陽以外の恒星の周りを回る惑星を見つけようという研究ですが、比較的最近まで、太陽系外の惑星というのは、一つも見つかっていませんでした。惑星は自分自身では光を出さず、中心の星の光を反射

して輝くだけなので、望遠鏡を使っても、真中の明るい星の近くにある惑星を見るのは難しかったからです。

しかし、1990年代にある方法で最初の「太陽系外惑星」が見つかって、それがきっかけとなって、次々に発見がなされ、今では300を超える惑星が見つかり、その数は増え続けています。ただし、見つかった惑星は、木星のような巨大ガス惑星であったり、中心の恒星に近いために熱すぎたり、逆に遠すぎて冷たい氷に覆われた惑星であったりして、生命を宿することができるような条件を備えているものはほとんどありませんでした。ところが、ごく最近、地球に近い条件を持つ惑星が発見されたというニュースがありました。これからさらに発見が続くだろうと期待されます。このように、「太陽系外惑星探査」は目覚ましい進展を見せていますが、あらためてわかることは、私たちの地球のように、生命を育むことのできる豊かな環境を備えた惑星は稀だということです。

## むすび

今回の共生のひろばの最初、人と自然の博物館 名誉館長の河合先生のお話の中で、「文化」をキーワードとした新しい共生関係、人と自然の新しい関係のご提案がありました。すばらしいことだと思います。そこに向けて、この「ひろば」に集われるみなさまのこれからのご活躍、一層のご発展を心からお祈りするとともに、私自身、非才な一人の科学者として、クロスネットやRCEなどを通じて、ささやかでもそのお役に立てればと願っています。